

放送開始に先駆け、ワンセグ放送視聴意向調査を実施

2006年放送開始予定の「ワンセグ」放送 92%が視聴したい

博報堂DYメディアパートナーズ メディア環境研究所は、東京放送(TBS)、KDDI 株式会社の協力を得て、来春放送開始が予定されている「ワンセグ」放送(携帯端末向け地上デジタル放送)の視聴意向調査を、「実際の試験放送波を使った電波送出」と「ワンセグ放送対応端末」を利用して実施し、92%という高い視聴意向度を確認いたしましたのでご報告致します。

本調査は、11月中旬に首都圏において20代、学生を中心の一般の視聴者100人を対象に実施したものです。実験に当たっては、TBSおよび博報堂DYメディアパートナーズ、博報堂が制作した「ワンセグ」放送コンテンツを、TBSが東京タワーおよび局地的ワンセグ試験電波にて送出し、調査対象者にワンセグ放送対応端末(au W33SA)を使って実際に視聴していただくというリアリティの高い調査手法で実施致しました。

この結果、

- ・実際に「ワンセグ」放送を体験した対象者のうち「ワンセグを視聴したい」92%
- ・現在の携帯端末向けアナログ放送比べると、ワンセグは「キレイ」「画質が良い」等の意見が8割近くを占める

など強い視聴意向を確認いたしました。

一方、「ワンセグ」放送が新しく開始されることに関する認知は30%、「ワンセグ」という言葉の認知は14%と、「ワンセグ」放送については、まだまだ認知は低いという課題も発見されました。

本件に関するお問合せ先

株式会社博報堂DYメディアパートナーズ総合計画室広報担当 川路、山下
メディア環境研究所 吉田、鈴木

03-6218-9175

03-6218-9513

<調査結果のポイント>

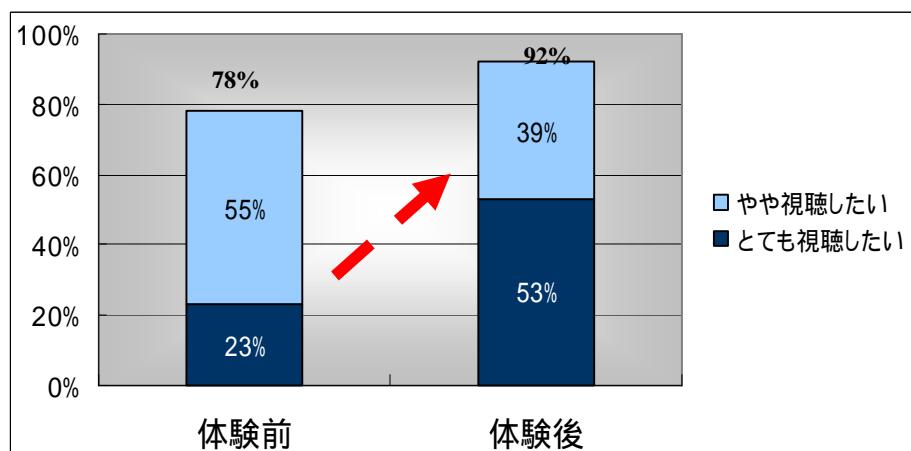
<調査概要>

調査方法:会場集合調査																								
調査時期:2005年11月																								
調査場所:首都圏																								
調査対象:20~34男女100名																								
サンプル構成																								
(性年齢別)																								
<table border="1"><thead><tr><th colspan="4">男性</th><th colspan="4">女性</th></tr></thead><tbody><tr><td>15~19才</td><td>20~24才</td><td>25~29才</td><td>30~34才</td><td>15~19才</td><td>20~24才</td><td>25~29才</td><td>30~34才</td></tr><tr><td>10%</td><td>29%</td><td>7%</td><td>4%</td><td>10%</td><td>26%</td><td>6%</td><td>8%</td></tr></tbody></table>	男性				女性				15~19才	20~24才	25~29才	30~34才	15~19才	20~24才	25~29才	30~34才	10%	29%	7%	4%	10%	26%	6%	8%
男性				女性																				
15~19才	20~24才	25~29才	30~34才	15~19才	20~24才	25~29才	30~34才																	
10%	29%	7%	4%	10%	26%	6%	8%																	
(職業別)																								
<table border="1"><tbody><tr><td>労務職</td><td>事務職</td><td>営業・販売・サービス業</td><td>技術・研究職(SEなど)</td><td>専業主婦</td><td>短大・大学生・大学院生</td><td>専門学校生</td><td>高校生</td><td>パート・アルバイト</td></tr><tr><td>2%</td><td>4%</td><td>13%</td><td>1%</td><td>4%</td><td>55%</td><td>6%</td><td>6%</td><td>9%</td></tr></tbody></table>	労務職	事務職	営業・販売・サービス業	技術・研究職(SEなど)	専業主婦	短大・大学生・大学院生	専門学校生	高校生	パート・アルバイト	2%	4%	13%	1%	4%	55%	6%	6%	9%						
労務職	事務職	営業・販売・サービス業	技術・研究職(SEなど)	専業主婦	短大・大学生・大学院生	専門学校生	高校生	パート・アルバイト																
2%	4%	13%	1%	4%	55%	6%	6%	9%																

1.「ワンセグ」放送を見た人の視聴意向は92%。

ワンセグ(携帯電話で現在の地上波を見られるサービス)の視聴意向をワンセグ受信体験してもらう前後で聞いたところ、体験後の視聴意向度は体験前より2割ほどアップし、92%という高い数値が確認された。

また、そのうち「とても視聴したい」という強い視聴意向を示した人は、体験後に2倍以上に増えた。



2.「ワンセグ」のサービス認知は30%に留まる

携帯電話で地上デジタル放送が視聴可能なサービス('ワンセグ')が新しく開始されることの認知は30%であった。また「ワンセグ」という言葉の認知は14%であった。逆に新しいサービスが開始されることも「ワンセグ」という言葉も知らなかった人が59%に上った。

3. ワンセグの利用意向時間帯は外出中で交通機関を利用している時間

日頃の生活行動(外出・交通機関利用・食事など)の時間帯と、ワンセグの利用意向時間帯の関係を見てみたところ、ワンセグ利用意向時間の8割は外出中で、特に交通機関利用中が3割に上った。

外出	交通機関 利用	食事
80.2%	31.6%	13.1%

また、現在の電車内やホームでの過ごし方の優先順位を聞いた後、ワンセグ導入後、ワンセグが何番目に重要ななるか聞いたところ、ワンセグが最も重要なと約2割の人が回答した。

<電車内やホームでの過ごし方の優先順位>

集計対象：日ごろ通勤・通学で電車を利用している人ベース(N=80)

導入前

1 携帯電話（メール・Webサイト閲覧）を見ている	37.5%
2 携帯電話や音楽プレーヤーで音楽を聴いている	32.5%
3 新聞、雑誌、文庫本などを読んでいる	13.8%
4 眠っている	6.3%
5 携帯電話やゲーム機でゲームをしている	3.8%
6 窓の外や社内を眺めている	3.8%
7 人としゃべっている	1.3%

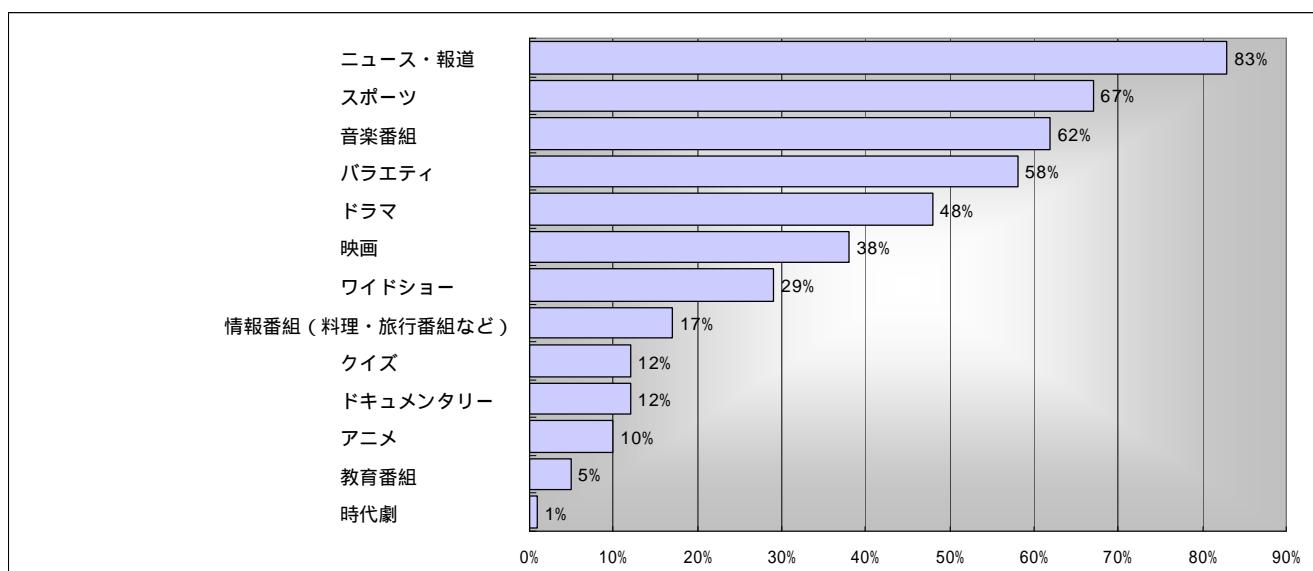
導入後

1 携帯電話や音楽プレーヤーで音楽を聴いている	28.8%
2 携帯電話（メール・Webサイト閲覧）を見ている	27.5%
3 ワンセグ	18.8%
4 新聞、雑誌、文庫本などを読んでいる	11.3%
5 眠っている	6.3%
6 窓の外や社内を眺めている	3.8%
7 携帯電話やゲーム機でゲームをしている	1.3%
8 人としゃべっている	1.3%

4. ワンセグで見たい番組は「ニュース・報道」「スポーツ」「音楽」

ワンセグで見たい番組を聞いたところ、「ニュース・報道」の視聴意向が圧倒的に高く、83%の人が見たいと回答した。次いで「スポーツ」67%、「音楽番組」62%、「バラエティ」58%が高い結果となった。

ワンセグで見たいテレビ番組

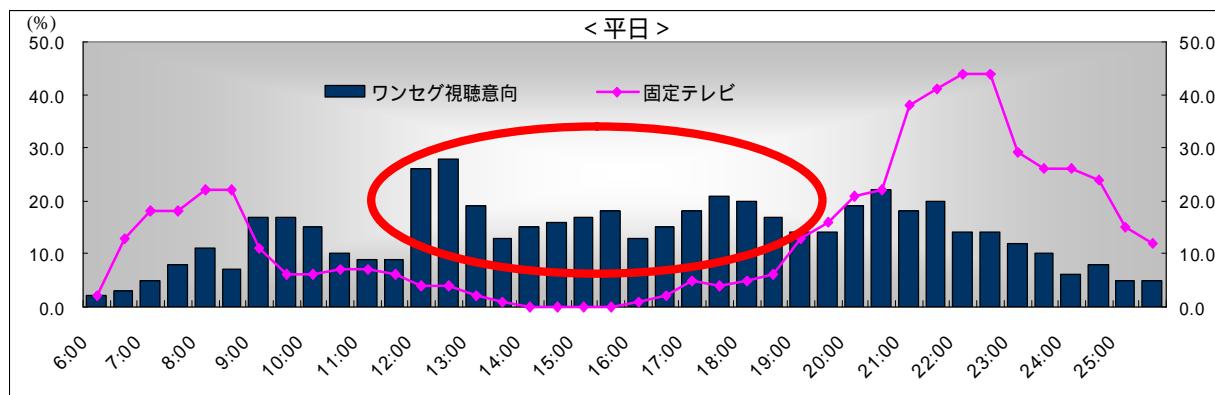


5. 若年層のワンセグ視聴意向は平日の日中から夕方にかけての外出時に非常に高い

平日のワンセグ視聴意向時間帯は、12:00～13:00 台の昼の時間にピークを向かえ、日中から夕方にかけての外出時、固定テレビを上回っている。

今回の調査対象者である若年層(主に15～24才)にとって、現在テレビを視聴できない時間帯における視聴意向が極めて高いことがうかがえる。

ワンセグ視聴意向時間帯



6. 携帯電話でのアナログ放送視聴よりも「キレイ」「便利そう」という意見が多く得られた

アナログ放送の受信とワンセグの受信を体験してもらった後、両サービスの違いを聞いたところ、ワンセグは「キレイ」「画質がよいなどの意見が圧倒的に多く8割近くを占めた。

7. 「ワンセグ」対応端末に対して非対応端末よりも余計に支払ってよい金額は平均 5,750 円

「ワンセグ」対応端末の購入意向者(全体の 73%)の人に、「ワンセグ」対応端末に対して非対応端末よりもいくらぐらいまで余計に払ってもよいと思うか聞いたところ、その平均は 5,750 円であった。

以上